

## 開発建設部

平成20年5月9日に「平成19年度国土交通白書」が閣議発布、公表され、沖縄ブロックにおいても、去る6月11日に「国土交通白書説明会」を開催しました。なお、その概要は、次のとおりです。

地球温暖化は、地球規模の問題であると同時に、わたしたちのくらしに密接に関わる身近な問題でもあります。地球温暖化の一因である二酸化炭素の排出量は、くらしが豊かになる中で増加してきました。また、地球温暖化がもたらす気候変動は、自然災害を増加させ、くらしに深刻な影響を与えるのではないかと懸念されます。国土交通省は、住まいやまちづくり、交通ネットワークの整備、防災、気象情報の提供など、くらしに密着し、そして地球温暖化と関連する行政分野を担っており、各省を挙げて地球温暖化に対応した施策を推進しています。

地球温暖化は、地球規模の問題であると同時に、わたしたちのくらしに密接に関わる身近な問題でもあります。地球温暖化の一因である二酸化炭素の排出量は、くらしが豊かになる中で増加してきました。また、地球温暖化がもたらす気候変動は、自然災害を増加させ、くらしに深刻な影響を与えるのではないかと懸念されます。国土交通省は、住まいやまちづくり、交通



説明会開催状況

### Point

交通に起因する環境負荷の軽減等を図ることを目的として、時差出勤を試行しています。

# 進行する地球温暖化とわたしたちのくらし

## ～地球温暖化対策に向けた国土交通行政の展開～

### 第1章 地球温暖化とわたしたちのくらし

#### 第1節 地球温暖化の現状と将来予測

- 世界全体でこの100年で0.74度平均気温が上昇。
- 最もシナリオでは今後100年に、4度気温が上昇する可能性。

#### 第2節 地球温暖化によるくらしへの影響

- 温暖化に伴い集中豪雨が増加し、洪水や土砂災害の危険性が高まる可能性。
- 年ごとの降水量の実物量の増大と、降雨量の減少により、洪水灾害の危険性が高まる可能性。
- 海面水位の上昇と熱帯低気圧の強度の増大により、高潮災害、海岸浸食の危険性が高まる可能性。

#### 第3節 くらしにおける取組みの必要性

- 全世界の温室効果ガス排出量は約50年間で約7倍増加。日本での温室効果ガスの排出量は1990年から6.4%増加。
- 業務部門と家庭部門が大きく増加。運輸部門も大きく増加したが、近年は減少。

### 第2章 くらしにおける地球温暖化の緩和に向けた課題

#### 第1節 運輸分野における課題

- 1 地域輸送
  - 自家用車の走行距離、燃費の動向を分析。燃費改善普及、エコドライブが重要。
  - 公共交通の動向を分析。近隣社会、高速道路の利用促進が重要。
  - 公共交通機関の利用動向を分析。地域の公共交通機関の活性化、再生が重要。
  - 物流の動向を分析。貨物自動車の輸送効率化、モーダルシフトの促進、消費者を含めた対応が重要。
- 2 国際輸送
  - 空港認定都市の対象外である国際航空、外航商運が国際的な課題。

#### 第2節 住宅・建設分野における課題

- 建物のエネルギー消費状況を分析。建物本体の省エネ性能の向上が重要。
- 建物の構造別や業種別のエネルギー消費量を分析。設備機器の効率化や使い方の工夫による省エネの推進も重要。
- 建設から廃棄までのトータルでのエネルギー消費量を分析。自粛にむけた使用可能で持続可能なにも優れた住宅の普及が重要な課題。

#### 第3節 都市・地域づくりにおける課題

- 都市地区監視した都市ほど、自動車からのCO<sub>2</sub>排出量が多くなることを分析。都市機能の整備が重要。
- 都市緑化の効果等を分析。都市の快適環境の改善を通じたCO<sub>2</sub>の削減が必要。
- 地区・世紀レベルでのエネルギーの効率的な利用の効果等を分析。都市のエネルギー構造の改善を通じたCO<sub>2</sub>の削減が重要。

### 第3章 地球温暖化時代における国土交通行政の方向

#### 第1節 地球温暖化がもたらす気候変動の回避・予測

- 気候・温室効果ガス・海洋等の資源や予測により、世界的な議論に貢献。

#### 第2節 気候変動がもたらす影響への適応に向けた取組み

- 地球温暖化による災害リスクの増加に対する適応策が必要。我が国においても検討を実施。

#### 第3節 地球温暖化の緩和に向けた取組み

- 初期認定都市目標達成とともに、中長期的な課題に向けた取組みを実施。